

ワンデイレスポンス プロジェクト

プロジェクトを終えて...

大洋建設株式会社

ワンデイとの出会い

- 2005年、ある検査時に、ワンデイレスポンスと言う、現場と役所とのコミュニケーションを知る
- その後2006年にテスト工事を行うことを知る(興味も有ったので、自分なりにインターネット等で調べてみた)
- イメージ(コンピュータソフトを使用して…)

ワンデイ・CCPM・ODSC

- 工事を受注し、工事担当職員よりワンデイプロジェクトでの施工依頼
- 2つ返事で了解、現場代理人もOK

プロジェクト開始

- 8月に事業説明を受ける
まずODSCでつまづく
- 工事を行う上で当たり前の事だが
目的・成果物・成功基準が出てこない

○（目的）

- 利益を上げる
- 品質の良い物を作る
- 工期を短縮する
- 地域社会に貢献する
- 若手の現場代理人を作り出す
- ワンデイプロジェクトを成功させる
- 災害ゼロ

D (成果物)

- 成果図書

- 道路構造物

SC（成功基準）

- 利益率〇〇%以上
- 12月末現場完成
- 出来形管理基準80%以内
- 工事評点85点以上

マネジメント・リクエスト

- 盛土材搬出業者との工程の調整

CCPMによる工程作成

- 余裕無しの工程が、今までの感覚と違いプロジェクトバッファを確保するのに、苦勞したが慣れてくると、簡単に作れる
- 作業の前後及び、並行作業等の設定が簡単に出来、作業の種類や人員数の予定がつけやすい
- 作業しながら、詳細な工程に組替えてみる
(盛土作業を1層ごと管理)

工事開始

- 工事を開始して、発注者側からの返事も早く現場に多く足を運んでくれ、通りすがりにもよく寄ってくれる

(発注者と共に仕事している)

- 作業員や協力会社の人達に説明をよく行い理解してもらい、各作業終了日を目標に作業をしてくれた
- 毎週月曜日の、工程打ち合わせ時に、他の現場の理解も得て、人員配置や機械の配置等も、協力してもらった

- 作業員も徐々に、いろんな工夫を自分たちから考え、実行していくようになった
- 現場が早く進むので、現場の管理書類等が遅れ残業が増えた
- ぎりぎりの工程を組んでいても、工程どおりに終らせたいくなる
- CCPM工程でやって行くと、人員の山崩しが出る(現場や会社全体)
- バッファの確認だけで現場の進捗がわかる

工事を終了して(ワンデイ)

- ワンデイ、業者にとって良いシステム
発注者側の反応も早く、通りすがりに
現場立会ということも
(工程が進む)
- 現場と発注者が一緒に工事を行った
- 書類等残業が増え忙しかった

ODSC

- 一部クリアしていない項目も有るが、初めてにしてはできたと思う
- 目標なので、もう少し話し合いを行い充実させたら良い項目もあった
- 管理基準等もう少し厳しくしても良かったかも

CCPM


- 会社内の遅れそうな、現場への人員配置等への話し合いが出来た
- 次の作業がはっきりする為、前もって問題が発生しそうな箇所等の把握が出来、早めに相談できた
- 工程をリアルタイムに、役所と共有できるので段取りがつけやすい
- 工程に合わせた、安全施設等も早めに処置できる
- プロジェクトバッファも、工事金額約1000万円増額、工期延長5日でも余裕で工事終了できた

今後のわが社

- 今年も、機会があればもう一度ワンデイ工事を行ってみたい（若い職員に経験）
- 社長を含め皆で検討し、複数の受注工事をCCPM管理して、工事間の人員や、機械等の調整をしてみたい
- ODSCを設定し、それをクリア出来る現場監督を育成し、安全で早く良い商品を低コストにて建設すれば、受注者・地域住民・発注者、三方良しの公共事業が達成できる

最後に

- この貴重な体験が出来たことを嬉しく思います
- この体験をもとに、会社のため、地域のため、頑張って行きたいと思います



E N D